

閉会中の調査報告

産業経済常任委員会

○国指定天然記念物ウツクシマツ自生地保全活用計画（案）について

開催日時 令和3年1月20日 午前9時25分～11時40分
場 所 東庁舎第4委員会室
出席者 奥村委員長 立入副委員長 森委員 松原委員 桑原田委員 小林委員
(植中議長)
説明員 建設経済部長、建設経済部次長、産業振興戦略局長、農林保全課長、
生涯学習課長

令和2年11月に示された「国指定天然記念物ウツクシマツ自生地保存活用計画」(案)について、現在1月15日から2月5日までの期間でパブリックコメントの募集を実施しており、今年度内の保存活用計画の策定へと進めていきたいとの説明があり、第6回策定委員会や文化庁からの指摘事項を踏まえての修正点の説明がありました。

質疑と答弁

委員から、

130ページに及ぶ計画は、時系列にまとめられており、かつ分かりやすいが、保全のための今までの経緯が記されているが、例えば1984年からの樹幹注入に対しての様々な意見に対して効果等の科学的な根拠が記されていない。

成木の減少がみられるが、薬剤散布・樹幹注入・下草刈り等が効果的であったかどうか。薬剤散布の評価も記載されておらず、今までの対策が、正しかったか間違っていたかの評価が無い。

松の保護には、根を踏まないことが大事だが、侵入対策に対する記載がない。

今後、松苗が計画的に根拠をもって移植されるのか。

観光資源として、自生地周辺地も含め具体的にどうしていくか、また、財源の確保も必要である。

との質疑・意見がありました。

執行部からは、

樹幹注入・薬剤散布の効果及び枯死の因果関係の分析は個々の意見の分かれるところであり、

根を踏まない対策は、保全のための整備として検討していきたいが、傾斜地でもあり、柵

などの進入防止対策を考えていきたい。

捕植の計画については、過去の根拠・計画が適切であったかどうかは、その生育が良くないということで、生育実験として実施して将来の捕植に役立てたいと思います。

これまで、全体的な構想が無かった地域資源として後世に残すために、保護活動・捕植活動をやっていきたい。

観光について、記載に至らなかったが、これからの課題として取り組んでいきたい。

財源については、さまざまな方策を打ってまいります。

との答弁がありました。